

# 森林生態系の保全

～生物多様性保全と森林環境の再生に向けて～

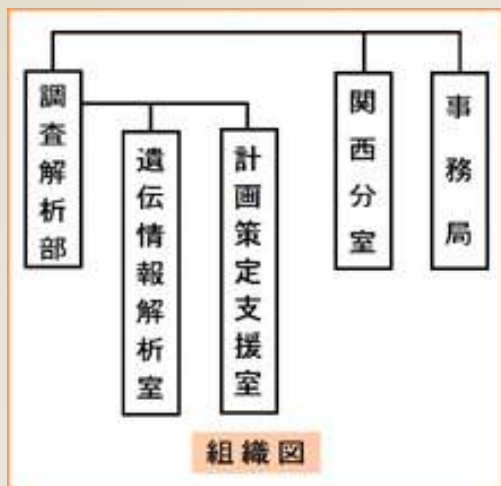
(株)野生動物保護管理事務所 関西分室  
濱崎伸一郎



# (株)野生動物保護管理事務所の概要



- 創立 1983年（昭和58年） 1月15日
- 設立 1991年（平成3年） 3月15日
- 関西分室設立 1998年（平成10年） 9月 1日
- 職員数 34名（2014年12月現在）
- 所在地
  - 本社 東京都町田市  
（技術職：17名，事務職：3名）
  - 関西分室 兵庫県神戸市北区  
（技術職：13名，事務職：1名）



- 野生動物管理コンサルティング
- 野生動物調査
- 野生動物対策の技術開発・支援
- 野生動物管理技術の普及
- 技術者の派遣





# クマ類の全国分布

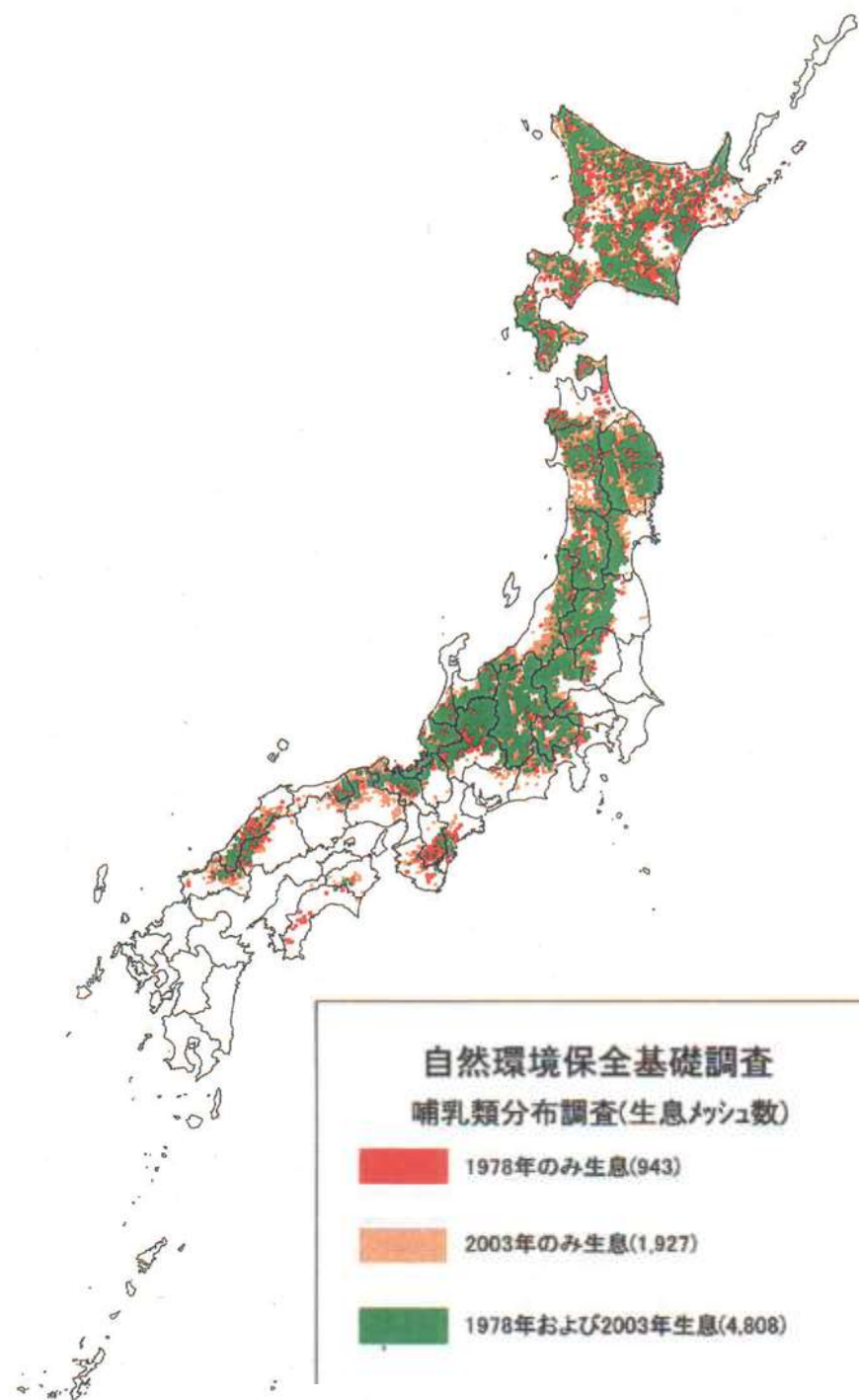


クマ類の分布



25年間で1.6倍に拡大

種の多様性調査哺乳類分布調査報告書  
(環境省, 2004) より





# 絶滅のおそれのある地域個体群 -ツキノワグマ-

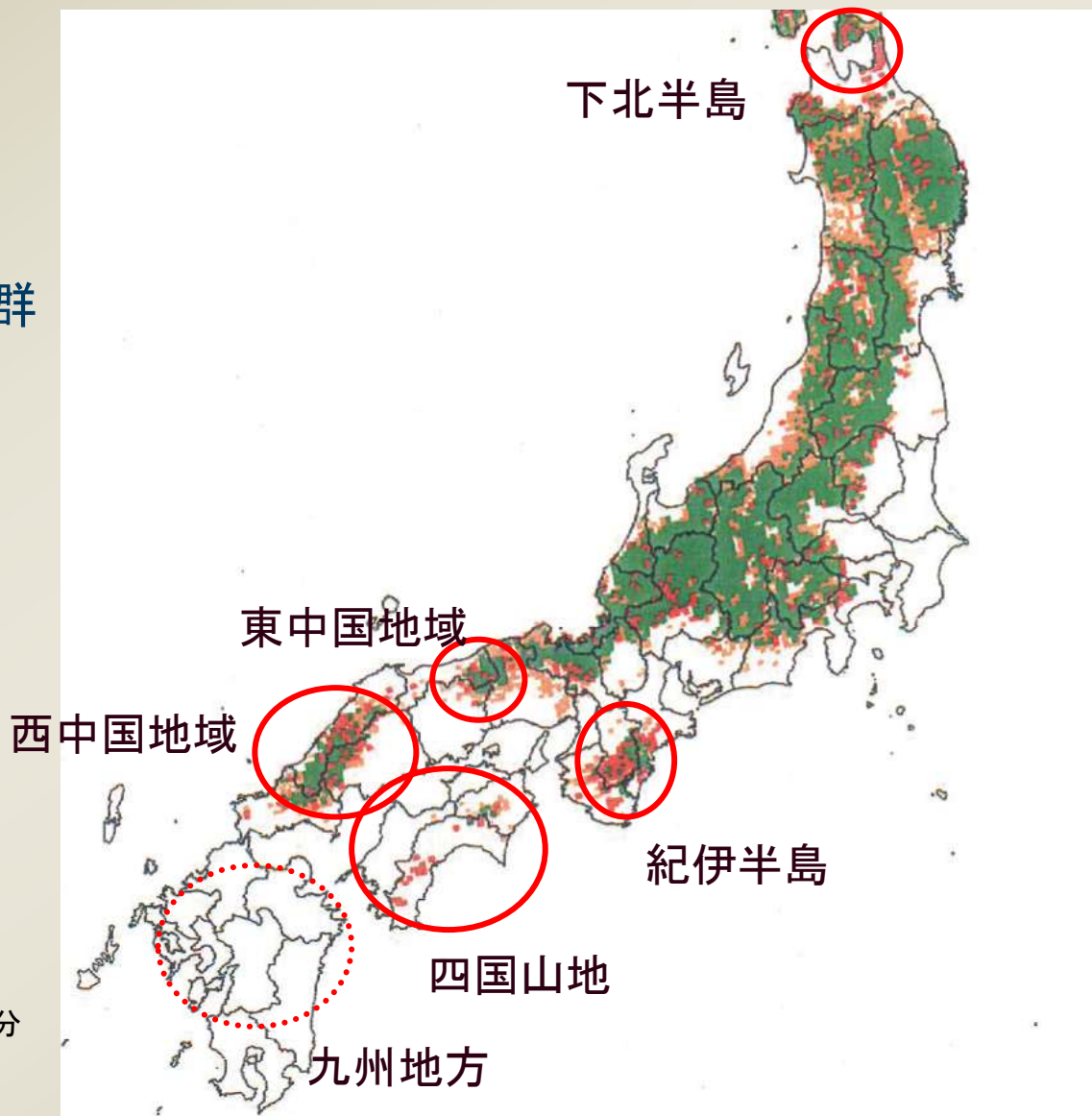
絶滅のおそれのある個体群



個体の保護  
個体数の維持・増殖  
も重要



放獣事業の実施



種の多様性調査哺乳類分布調査報告書  
(環境省, 2004) より



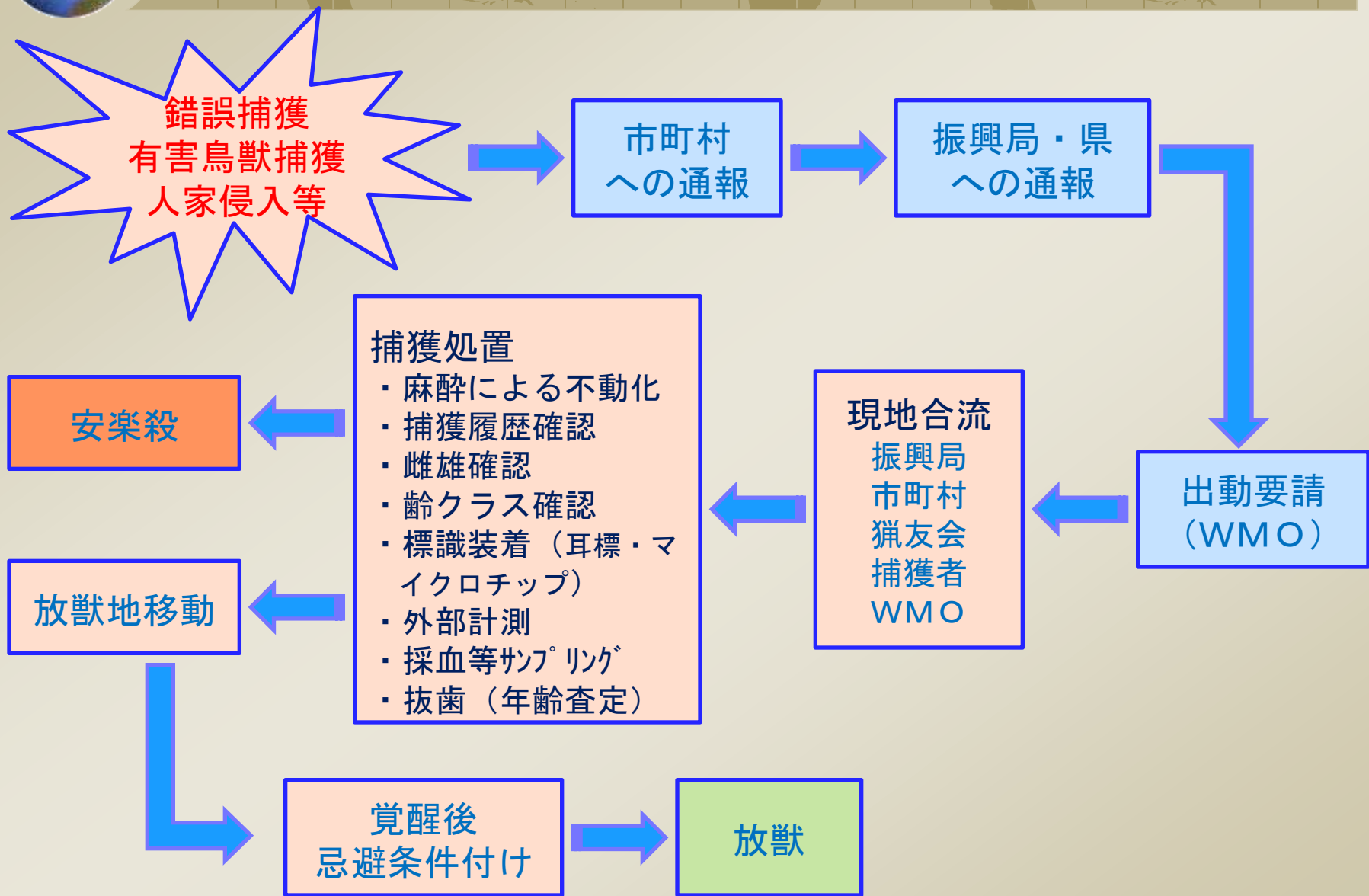
# 近隣府県のクマ出没時の対応 (兵庫県)

## ● ツキノワグマ出没対応基準

区分	状況	対応	捕獲後の取り扱い
第1区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山中での目撃</li> <li>●一時的な人里への出没</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正確な情報収集・周知</li> <li>●入山者への注意喚起</li> </ul>	
第2区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●被害が発生（精神被害含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正確な情報収集・周知</li> <li>●誘引物の除去・囲い込み</li> <li>●追い払い実施</li> </ul>	
第3区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●繰り返し出没し、被害（精神被害含む）が発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正確な情報収集・周知</li> <li>●<b>学習放獣</b>を前提とした捕獲（ドラム缶檻）の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>耳標・マイクロチップ</b>を装着</li> <li>●<b>電波発信器</b>を装着し追跡</li> <li>●<b>忌避条件付け</b>を行って放獣</li> </ul>
第4区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>学習効果が認められない</b></li> <li>●<b>人身被害の危険性が高い</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正確な情報収集・周知</li> <li>●<b>殺処分</b>（原則ドラム缶檻による捕獲、危険性が高い場合銃器等を用いる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●捕獲個体は標識により捕獲履歴を確認</li> <li>●殺処分個体は研究センターにより分析</li> </ul>
誤捕獲	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有害鳥獣捕獲または狩猟におけるワナで誤って捕獲された場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●捕獲個体は<b>原則放獣</b>（安全性が確保できない場合は県が放獣作業を実施）</li> <li>●捕獲者に適正な捕獲を指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原則安全な同一市町内に放獣</li> <li>●<b>標識を装着</b></li> <li>●集落・農地周辺の捕獲の場合は<b>学習放獣</b>を実施</li> <li>●第4区分個体と判断される場合は殺処分</li> </ul>



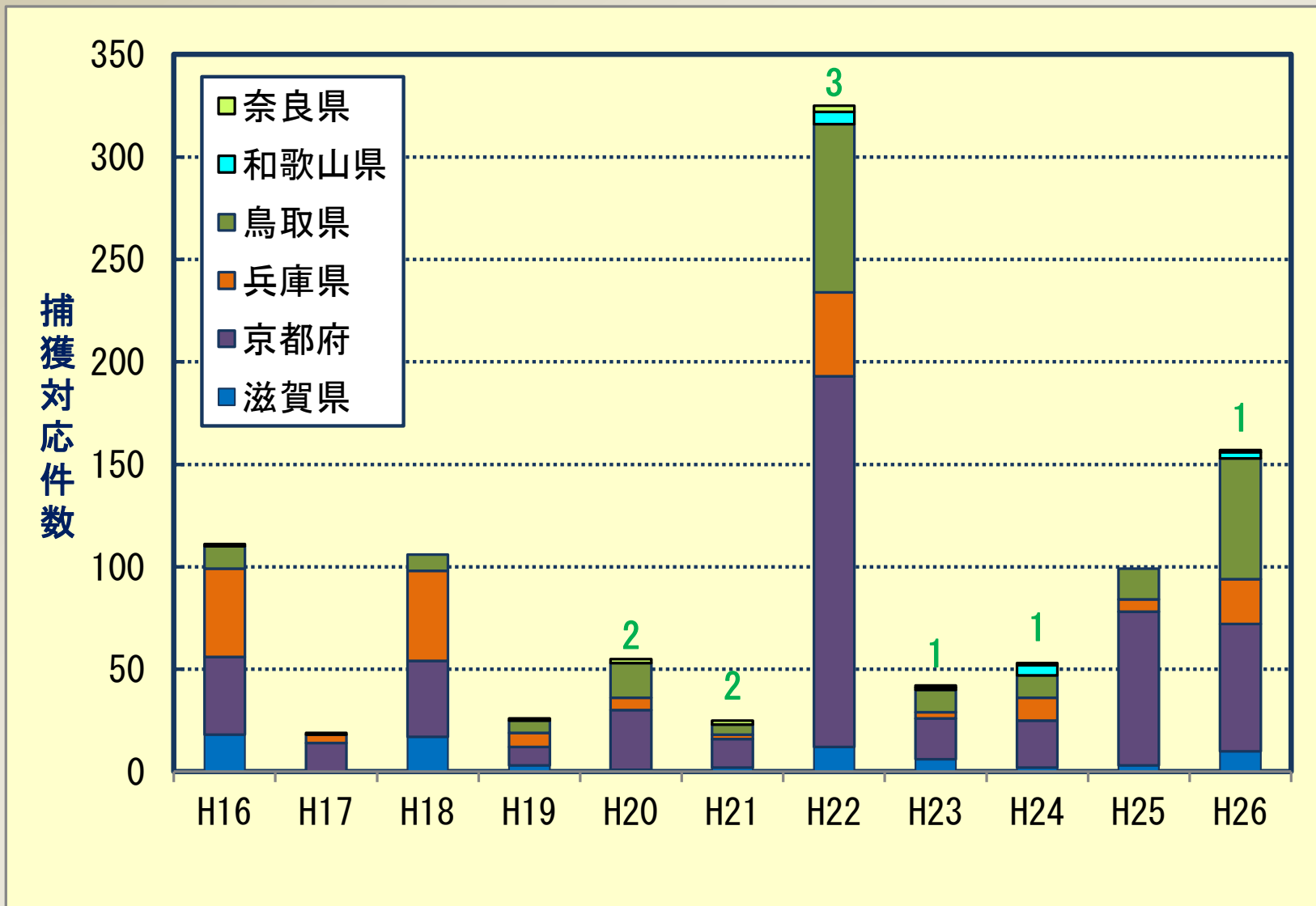
# 捕獲から放獣までの流れ





# クマの捕獲対応件数

(滋賀県・京都府・兵庫県・鳥取県・和歌山県・奈良県)







# ツキノワグマの捕獲

-箱罟・ドラム缶檻-



2014/8/12  
十津川村旭





# ツキノワグマの捕獲

-ククリワナ-







# ツキノワグマ捕獲・放獣作業

-標識装着・確認-





# ツキノワグマ捕獲・放獣作業

-外部計測・採血・抜歯-







# ツキノワグマ捕獲・放獣作業

-移動・放獣-



2014/8/12  
十津川村旭



2014/8/12  
十津川村旭





# ニホンジカの全国分布



シカの分布



25年間で1.7倍に拡大

種の多様性調査哺乳類分布調査報告書  
(環境省, 2004) より

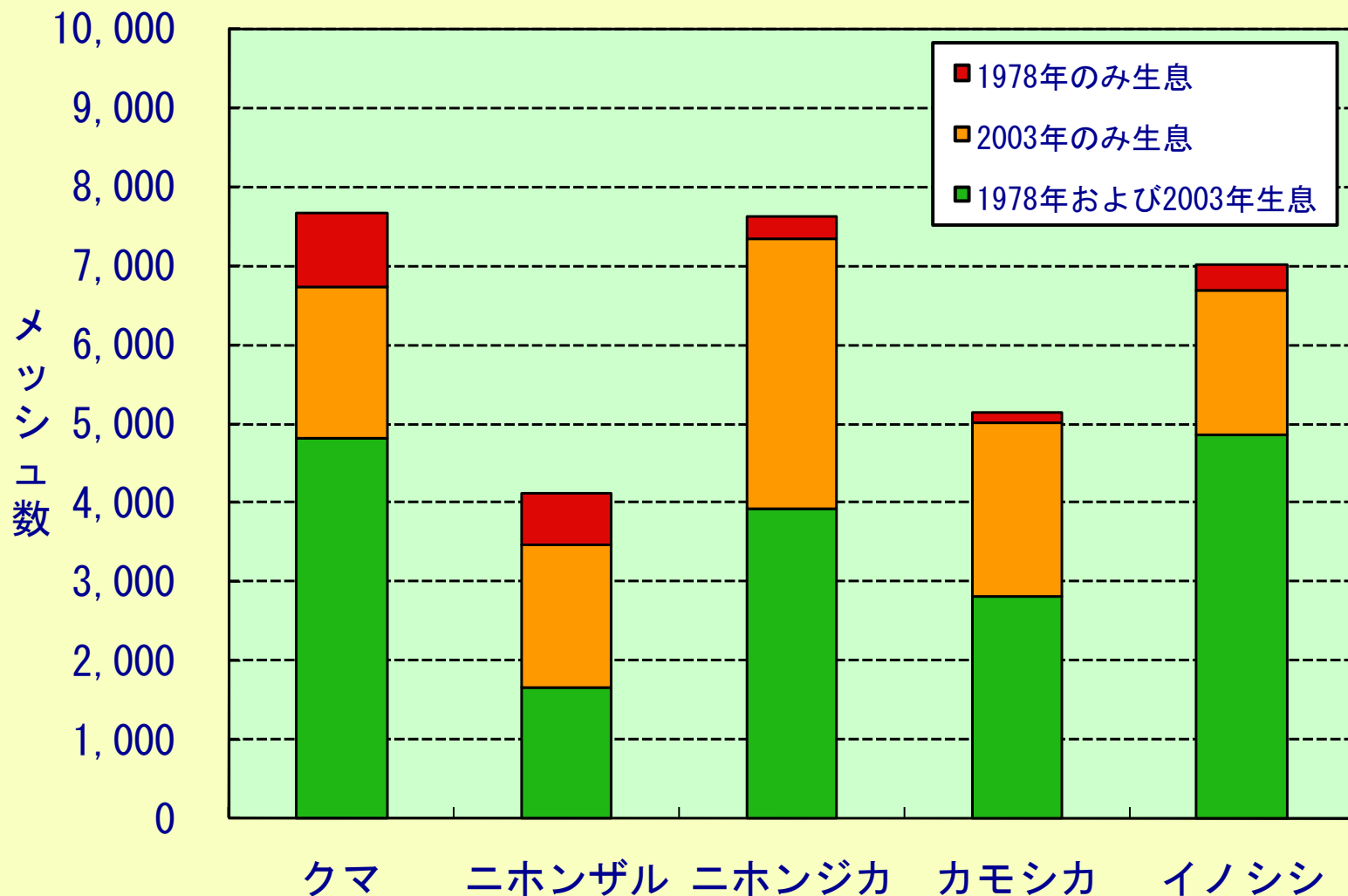






# 哺乳類の分布変化

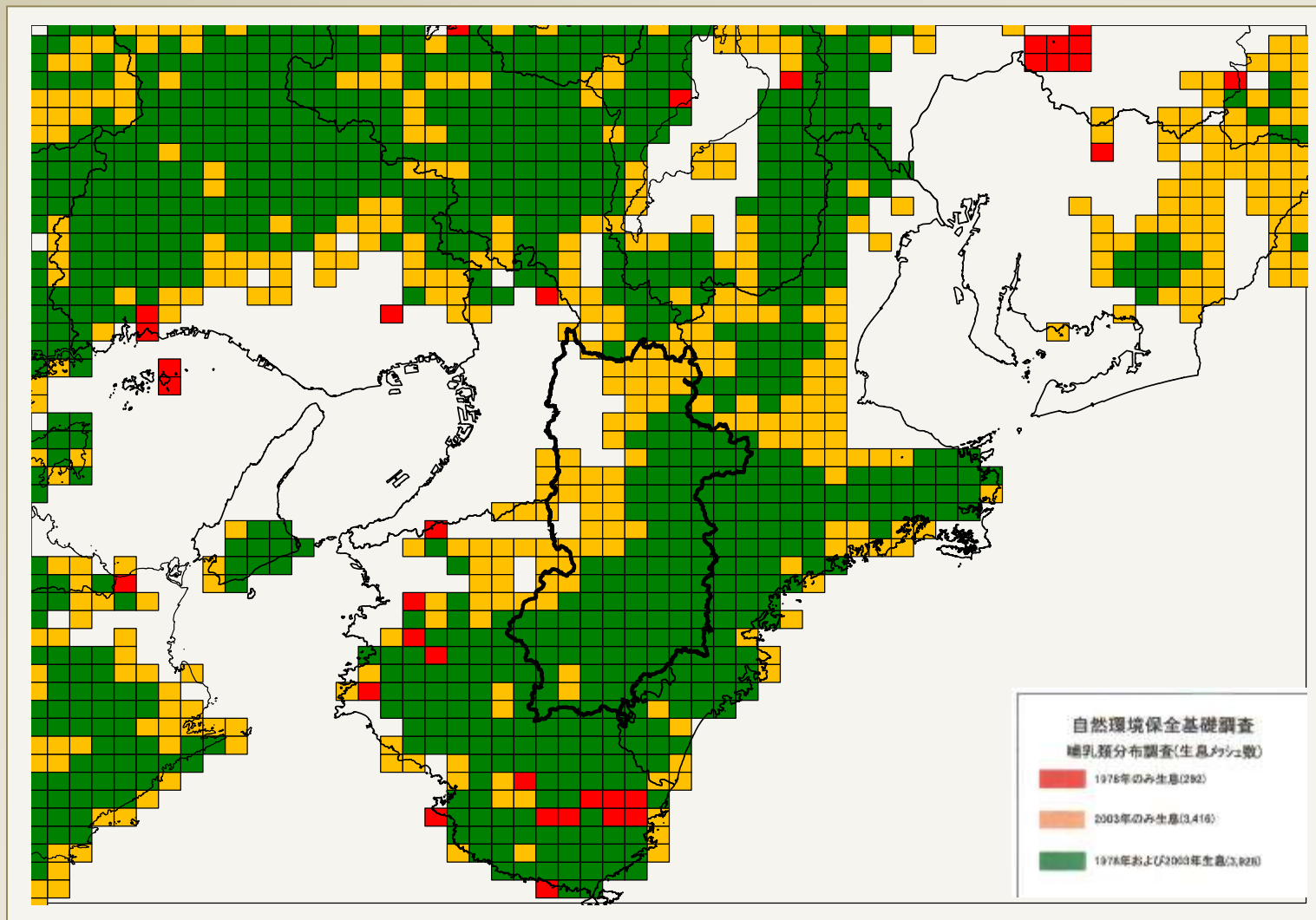
## -大型哺乳類の分布メッシュ数の変化-







# 奈良県におけるニホンジカの分布



種の多様性調査哺乳類分布調査報告書  
(環境省, 2004)より



# シカによる自然植生への影響が深刻な自然公園など

生物多様性保全  
への大きな影響



0 250 500km



# シカの影響による自然植生への影響



高山・亜高山帯の希少植物群落の退行





# シカの自然植生への影響



樹皮食い・下層植生の退行





# シカの自然植生への影響



ブラウジングラインの形成・樹皮食い





# シカの自然植生への影響



シカ密度低



シカ密度高

下層植生の退行・土壌の流出





# シカの自然植生への影響



大台ヶ原正木ヶ原

大杉谷国有林



森林の衰退・乾燥化・土壌の流出・斜面崩壊



水源環境・国土保全上の問題





# ニホンジカが増える要因

## ➤ 生息地の攪乱

◆ 拡大造林

◆ 牧草地，農地の拡大



➔ 栄養状態向上 → 繁殖率上昇

## ➤ 農林業環境の変化

◆ 集落周辺への定着 → 農作物被害 → 栄養状態向上

## ➤ 温暖化

◆ 積雪量の減少 → 生息地の拡大

冬季死亡率の低下

◆ 豪雪年の消失 → 大量死の消失

## ➤ 捕獲圧の低下

◆ 狩猟者数の減少・高齢化

◆ メスジカ捕獲割合の低下



# 生物多様性保全と森林環境の改善に向けて

## 多様な生物を育む森林環境の再生

### ➤ 人工林の健全化

- ◆強度間伐による下層植生の回復
- ◆生育不適地の広葉樹林化
- ◆伐採跡地の適切な管理・土壌流出の阻止

### ➤ 里山の適切な整備

- ◆里山の利用と手入れ
- ◆鳥獣と人間生活領域の緩衝帯としての機能

### ➤ シカの適切な管理

- ◆健全な森林の維持が可能な適正密度の評価
- ◆順応的管理による適正密度への誘導
- ◆捕獲従事者の確保と育成（捕獲事業の実施）

### ➤ 希少植物群落・動物の保全

- ◆パッチディフェンス等による希少植物群落の保護
- ◆絶滅のおそれのある種・地域個体群の保全